

福島・南古館遺跡

みなみふるだて

- 1 所在地 福島県岩瀬郡長沼町大字江花字弘法田・泥淵
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)五月～一九八八年三月
- 3 発掘機関 長沼町教育委員会
- 4 調査担当者 田中正能
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 室町時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



遺跡は町の中心部から西へ約1km離れた河岸段丘上に造られた館跡

で、濠の一部と土塁が現存する。

調査は一九八八年に計画された県営圃場整備の範囲内に南古館遺跡が含まれていることにより、県郡山農地事務所と長沼町との間で協議を行って実施した。調査の結果、方形の主郭

を中心に東と北に曲輪を配置する複郭構造の館であることが確認された。

遺構は主郭を中心に確認され、掘立柱建物・石積遺構・集石遺構・井戸・土壙などの他、多数の柱穴が検出された。また、濠の中より、主郭と曲輪を結んでいたと思われる橋も確認された。

遺物のほとんどは主郭と濠内から出土しており、多数の土師質土器や陶磁器類の他、金属製品(刀・鉄鍔ほか)・石製品(砥石・石臼)・銭貨(宋銭・明銭)・木製品(修羅・呪符・竪杵ほか)などが混在した状態で出土した。

館が機能していた時期としては、出土した国産陶磁器類の生産年代が一五世紀の範囲に集約されることから、一五世紀半ばから一六世紀前半にかけての比較的短い期間に限定されることが予想される。当遺跡から検出された呪符は、多数の木製品とともに濠の中より出土したものである。完形品および破損品を含め、総数四〇点を数える。墨痕が残り、肉眼および赤外線カメラ等により文字を判読できるものは六点だけである。他に墨痕が消失し、赤外線には反応しないが、肉眼で文字の痕跡を確認できるものが数点存在する。

8 木簡の釈文・内容

(穿孔)

- (1) 「南無薬師如来。」
- (2) 「符籙急々如律令矣」

190×29×4

184×24×4

9 関係文献

長沼町教育委員会『南古館Ⅰ』（一九八八年）

(3) 「梵字」大日如来

(113)×12×1

(4) 「梵字」大日如来

(111)×12×1

(5) 「梵字」大日如□

(84)×12×1

(6) 「梵字」大日如来

(164)×12×1

(市川一秋)



南古館遺跡(上が北)